

太宰府市

公文書館通信

2018.11

vol.1

太宰府市公文書館パネル展

幕末太宰府こぼれ話～五卿とその周辺～

開催中!!



◁五卿が滞在した延寿王院の門

■展示①

日時：7月25日（水）～12月14日（金）

午前8時30分～午後5時

場所：上下水道事業センター1階 ビジターフロア

■展示②

日時：12月17日（月）～12月28日（金）

午前8時30分～午後5時（市役所開庁時のみ）

場所：市役所1階 市民ギャラリー

※申し込み不要、無料

▽展示風景



太宰府市公文書館パネル展を開催しています

公文書館では、市民憩いの場として土・日・祝日も開放されている上下水道事業センター1階のビジターフロアや市役所1階の市民ギャラリーを利用して、太宰府の歴史や文化に関するパネル展示を開催しています。この『公文書館通信』では、パネル展の内容紹介を中心に、さまざまな情報を発信していきます。

幕末太宰府こぼれ話～五卿とその周辺～

慶応元（1865）年2月から同3年12月まで、京を追われた尊王攘夷派の5人の公家（三條実美・三條西季知・東久世通禧・四条隆謨・壬生基修）は、太宰府天満宮延寿王院（現宮司西高辻邸）に滞在しました。

今回の展示では、明治維新150年にちなみ、幕末期に太宰府に滞在した5人の公家（五卿）の滞在にまつわるエピソードの一端をパネルと写真で紹介しています。

① 五卿、延寿王院入りの顛末

文久3（1863）年、京都で公武合体派が尊王攘夷派を追い落とす事件が起こります（8月18日の政変）。このとき、三條実美をはじめとする7人の公家（七卿）は京都を追われ、長州藩に身を寄せました。

その後、別行動をとった澤宣嘉と長州で死去した錦小路頼徳を除く五卿に対し、幕府による長州征討を回避するための条件として長州藩を出ることが議論され、薩摩藩の西郷隆盛や福岡藩の月形洗蔵などの働きにより、五卿は一旦筑前に移されることになりました。

当初は五卿を5藩（福岡藩・久留米藩・佐賀藩・熊本藩・薩摩藩）がそれぞれ預かる予定でしたが、五卿は同じ場所に住むことを強く主張します。慶応元（1865）年2月、五卿は太宰府に移されますが、受け入れる太宰府天満宮側は、社内の各坊に分かれて住んでもらうつもりでしたが、どうしても五卿がその条件をのみません。別当大鳥居家はやむなく住まいを明け渡し、自身が別の坊に住むことになってしまいました。

② 乙丑の獄と五卿

慶応元（1865）年6月、五卿が大打撃を受ける事件が起こりました。福岡藩は勤王派を一掃する肅清を断行し、その影響は太宰府で宿屋を営む栗原孫兵衛の入牢など、市井にも及びました（乙丑の獄）。

藩から五卿の世話を命じられた勤王派の藩士団頼母は、五卿から厚い信頼を受けた人物でした。あるとき頼母は、勤王派が藩主の交替を画策しているとの陰謀を五卿から聞かされます。頼母はこれを藩に報告し、藩主黒田斉溥（長溥）は大いに立腹しました。

このことも、乙丑の獄が起こった要因の一つとなった可能性があります。



七卿西竄碑（太宰府天満宮）

③ 五卿と武蔵温泉

五卿は太宰府滞在中、たびたび武蔵温泉に入りに行ったことが資料に見えます。

慶応元（1865）年 6 月 26 日、三条実美は落馬の治療のため温泉に行きました。翌日から 1 週間ほど滞在して療養につとめ、帰館後には温泉奉行松尾山太夫をはじめ、近隣の庄屋等にお礼のため金子を配ったといひます。

温泉に入った後には、松尾家を訪れ、酒の接待を受けたこともあったようです。五卿にとって温泉行きは、いいリフレッシュだったのでしょう。

④ 五卿守衛者の無法

五卿の警護のため、九州 5 藩（福岡・久留米・佐賀・熊本・薩摩）からたくさんの守衛の者が滞在中、太宰府のまちはにわかに活気付きました。

慶応 2（1866）年 8 月、小鳥居小路に住む医者が何者かに切り殺されるという事件が起きました。目撃者によると、2 人の侍が刀を振りかざして、住民を追いかけたと言ひます。犯人は捕まらず、薩摩藩の五卿守衛のものだったという噂が残りました。

当時の太宰府はなかなか物騒だったようです。



現在の小鳥居小路の街並み

資料紹介

五卿滞在中の延寿王院関係の日記には、公的記録『延寿王院御用日記』と私的記録『延寿王院日記』の 2 種類があります。この中には、五卿に関わる記事を多く含み、五卿および幕末期の政治を研究する上で、大変貴重です。

この日記の写本が、福岡県立図書館と九州大学附属図書館付設記録資料館に残されており、公文書館で複写資料の閲覧が可能です。

※このうち慶応元年の御用日記を文化ふれあい館で展示します。（次頁掲示板参照）



延寿王院日記・延寿王院御用日記
（九州大学附属図書館付設記録資料館蔵写本）

掲 示 版

こんなことをやっています!!

太宰府市公文書館は、『太宰府市史』編さん事業の中で構想が生まれ、平成 26 年 4 月 1 日、旧国士舘大学太宰府キャンパス跡地（上下水道事業センター内）に開館しました。

当館では、市の行政文書や太宰府地域に関わる資料を収集・整理・保存し、調査研究を行うとともに、資料の閲覧業務や太宰府に関する歴史講座等を行っています。

行政出前講座受け付けます!!

行政出前講座の一つとして、公文書館職員が皆さんの元に出向いてお話する講座を行っています（受講料無料）。講座実施予定日の 1 か月前までに、インターネットで申し込まれるか（<http://www.city.dazaifu.lg.jp/cgi-bin/inquiry.php/51>）、申込書を公文書館までご提出ください。

問い合わせ：公文書館（連絡先は下欄参照）

■G-4「太宰府市の歴史」

お住まいの人々とともに「太宰府市史」からその地域の歴史を考えます。

■G-5「公文書館の案内」

公文書館の役割や所蔵資料について説明します。

開催します!!

◎文化ふれあい館 太宰府歴史トピック展示 五卿と太宰府天満宮

乙丑の獄（五卿の太宰府滞在中に起こった福岡藩における勤王派粛清事件）における、太宰府天満宮への影響をうかがいます。

日時：12 月 4 日（火）～1 月 30 日（水）

午前 9 時～午後 5 時

休館日は毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）、年末年始（12 月 28 日から 1 月 4 日まで）

場所：太宰府市文化ふれあい館ロビー

太宰府市国分四丁目 9 番 1 号

問い合わせ：TEL (928) 0800（文化ふれあい館）

◎太宰府学講座

第 3 回太宰府の専門職員が語る

幕末期、五卿が太宰府に滞在したことで、当地に大きな影響をもたらしました。特に滞場所となった太宰府天満宮との関わりについて、当時の資料から紐解いていきます。

日時：平成 31 年 1 月 20 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

場所：太宰府市文化ふれあい館

演題：五卿と太宰府天満宮

講師：朱雀信城（太宰府市公文書館嘱託職員）

定員：50 人

締切：平成 31 年 1 月 7 日（月）

受講料：200 円

問い合わせ：TEL (928) 0800（文化ふれあい館）

アクセス

公共交通機関でお越しの場合は、コミュニティバス「まほろば号」（北谷回り）をご利用ください。西鉄五条駅 or 西鉄太宰府駅（太宰府線）⇒上下水道事業センター下車



ご利用の案内

閲覧時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
（閲覧のための入館は午後 4 時まで）

閉館日 毎週土曜日・日曜日、祝日
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

太宰府市公文書館通信 Vol.1

編集：太宰府市公文書館

〒818-0110

福岡県太宰府市御笠五丁目 3 番 1 号

電話：(921) 2322（直通、FAX 兼用）

E-mail: kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp

発行：太宰府市

発行日：平成 30 年 11 月 12 日